TEBA-JIMA-MAP

出羽島

～散策絵地図～

重要伝統的建造物群保存地区

牟岐町

出羽島は時間の流れが違います。
島の時間は島民によって守られています。
あなたも、島を大切にする島民になってください。

島民の心得

1 島の方のプライバシーを守ってください。
2 島は静かです。大きな声は出さないで。
3 通路は狭いです。譲り合いながら通行してください。
4 島の方の許可なく家屋に立ち入らないでください。
5 断りなく、人物及び家屋等の写真撮影は、ご遠慮ください。
6 水着での移動はご遠慮ください。
7 ゴミは持ち帰ってください。
8 公衆トイレは一箇所です。大切に利用してください。
9 伝統的な木造家屋が残っています。
火気の取り扱いにご注意ください。
10 交通手段は定期船のみです。
出航時間をご確認ください。
11 診療所はありますが、毎日は開いていません。
薬などは事前に準備が必要です。

出羽島は島民が寄り添い、島を大切に守っています。
この島には守るべきルールがあります。
島を大切に考えて頂ける人をお待ちしています。

お問い合わせ先

牟岐町役場　〒775-8570
徳島県海部郡牟岐町大字中村字本村7-4
TEL：0884-72-1111（代表）
FAX：0884-72-2716

牟岐町観光協会　TEL/FAX：0884-72-0065

『おいでってば』で検索
ホームページはこちら
http://tebajima.jp

アクセス

JR牟岐線　徒歩　連絡船

JR徳島駅 ―― 牟岐駅 ―― 牟岐港 ―― 出羽島

70分（特急）　8分　15分

連絡船時刻表

	牟岐港発	出羽島発
1便	07:00	06:30
2便	08:20	07:25
3便	11:10	09:00
4便	13:30	12:20
5便	16:00	15:00
6便	17:20	16:35

出羽島連絡事業㈲　ＴＥＬ：0884-72-2360

地図

引き継がれてきた島の歴史

大正～昭和初期の出羽島
写真提供 平野 邦子 氏

出羽島は江戸時代から漁業で栄え、幕末の民家を最古として明治から昭和初期にかけての建物が港を囲むように建てられており、伝統的な漁村集落の景観が現在も良く残っています。

洲鼻地区西部の町並み

集落を巡る幅の狭い通りの両側には、伝統的建築物の土庇（どびさし）が連続し、建物が両脇から通りを包み込むような、温かく、どこか懐かしい風景が広がります。

奥の坊のアワエ

通りから浜・港側へは、「アワエ」と呼ばれる建物と建物の間を走る細い路地が通路として利用されています。特に奥の坊と呼ばれる地区では、出羽島への本格的な移住初期に形成されたと考えられる地割（ちわり）が良く残っています。

また、島内には石積み、石階段、石組水路や井戸などにおいて、浜で採取された石を利用しているものが見られます。

これらの伝統的な建物・地割（ちわり）や、自然石材を用いた工作物などは、島の土地・環境を最大限活用し、たくましく生きてきた人々の生活の証であり、現在も力強く息づいています。

漁業と共に歩んだくらし

室戸阿南海岸国定公園のほぼ中央に位置し、太平洋の荒波と四国産地の山々が融合する景色が望めます。東に見える大島・津島の雄大な眺望は一見の価値があります。

牟岐大島から昇る朝日と四国産地に沈む夕日は、出羽島でしか味わえない眺望です。

山村雪太郎氏が阿波沚（あわはえ）を発見した功績により、カツオ漁が隆盛を極め、阿波の出羽島として名前を馳せました。現在は沿岸漁業が主であり、なかでも、はえ縄漁で獲れた甘鯛やレンコダイの温かい出汁にソーメンをつけて食べる島ソーメンは島の郷土料理です。

4～6月の時期に堤防や港のあちらこちらで天草を干しています。丁寧にゴミをとり、天日干しされた天草は寒天ゼリーやトコロテンとして人気があります。

また、徳島県の天草生産量の約2割を出羽島産が占めています。出羽島産の天草を練り込んだヘルシーな天草麺は川長酒店で販売しています。

波止（はと）の家（いえ）

古民家を改修した
交流施設です。

藍染の暖簾が出ているときは、
休憩できます。
ぜひ、お立寄りください。

民宿　まるわ

出羽島の住民になったような
感覚を味わえる民宿

素泊り歓迎：お1人様 3,500円
キッチンは自由に使用できます。
10人程度まで宿泊できます。
℡：0884-72-1484

出羽島　ゲストハウス シャンティシャンティ

出羽島の自然を存分に
満喫できるゲストハウス

宿泊料金 一泊２食
お1人様 6,000円（税込）
℡：090-7574-7879（要予約）
※アクティビティー
【ボートツアー】2,000円
【ボートピクニック】7,000円
【シュノーケリング（夏期のみ）】4,000円
【島散策】所要時間 約２時間 2,000円など
詳細問合せ　Mail:tebajima.gh@gmail.com

出羽島帆布工房（てぼじまはんぷこうぼう）

世界にひとつだけ
出羽島を感じながら作られた
一生ものの鞄

オンラインショッピング
▶http://tebajimahanp.thebase.in

問合せ　Mail:atsuo-0603@mb.pikara.ne.jp
営業時間 8:30 ～18:00 不定休
℡：0884-72-0075

散策絵地図 出羽島（てばじま）

「重要伝統的建造物群保存地区」
「未来に残したい漁業・漁村の歴史文化百選」

出羽島は、年岐港から南3.27kmの沖合に浮かぶ、周囲4kmのとても小さな島です。古くは「手波（テハ）」「出波（デハ）」とも呼ばれていました。享和元年（1801年）の史料によると、阿波藩の命で、年岐から出羽島への本格的な移住がこの頃より始まり、その後の漁業の繁栄とともに拡大し、昭和初期に、現在のような集落がほぼ形成されました。風による被害を避けるため、民家の軒高は低く、いぶし瓦の屋根と、一様にそろった軒先の連なりが、とても印象的です。
明治期から昭和初期の建物も多く、これだけまとまった漁村集落が残存する例は、大変珍しいといわれています。

「大島」

「津島」

観光遊歩道「東廻りコース」は崩落のため、現在通行止めです！

観栄寺の地震・津波の碑（新・旧碑）
嘉永7年（1854年）に出羽島を襲った地震、津波の際島民が山上へ避難し難を逃れたことを神仏に感謝する内容が記された石碑があります。

「観栄寺」

最盛期には、山頂まで段段畑がありました。

島の気候は、きわめて温暖です。真冬に「エンドウ」の花が咲き、「ハイビスカス」や「ハマユウ」などの亜熱帯植物も、多く自生しています。

標高76.6mの山頂にある「出羽島灯台」、38km先まで光が届きます。

阿波沚（あわはえ）発見者功績の碑、石積みの防波堤／水産庁選定

国指定天然記念物

海岸に堆積した丸石に守られた「大池（おいけ）」には、1億4千万年前に繁栄した、貴重な藻類「シラタマモ」が国内で唯一、自生しています。

観光遊歩道中央コース
船着場から灯台まで1km

観光遊歩道西回りコース
船着場から灯台まで1.8km

「ウシントンヤシ」

「蛇の枕」跡地
野口雨情の歌に詠まれた大岩「蛇の枕」も近年の災害で崩落してしまいました。

「出羽小学校跡地」
明治15年に創立された小学校も、現在では災害時の避難場所になっています。

「ヘリポート」

町並みビューポイント

「発電所跡」
昭和29年から41年まで自家発電で灯火していました。

「阿波沚（あわはえ）発見者功績の碑」

出羽島ゲストハウス シャンティシャンティ

民宿まるあ

出羽島帆布工房

「タスカルタワー」

デイサービス「島の家」

「出羽島簡易郵便局」

連絡船発着場

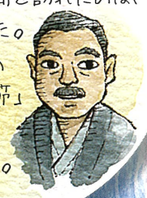
「港（ハマ）」
昔は、大生毛（おいけ）と呼ばれていました。

「石積みの大波止（堤防）」
丸石などを建材として、明治4年頃に構築された、歴史的な遺産です。

「すばな（洲鼻）」
干潮時には、丸石が波で打ち寄せられた、州が現れます。

「野口雨情の歌碑」

「七つの子」「赤い靴」などで知られる童謡詩人「野口雨情」が出羽島を訪れたのは、昭和11年の2月でした。雨情が残した15節の歌は、「年岐みなと節」として、今も広く親しまれています。



船で廻れば出羽島一里、島にゃ大池蛇の枕〜♪

「出羽神社」

「出羽島診療所」

「出羽島漁村センター」
横には「蛭子神社」

「番屋」
本格的に人が移り住む前から「島番」として、番人が置かれていました。

連絡船「大生丸（おおいけまる）」
年岐の町と出羽島を結ぶ連絡船。大正末期頃までは、郵便船が、一日一往復していました。

「波止の家」古民家を改修した交流施設です。

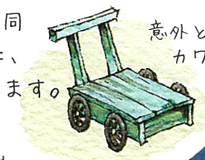
※藍染の暖簾が出ているときは誰かいるかも。声を掛けてみてください！

島の貴重な水源だった「共同井戸」には、町指定天然記念物の、「カニクイ（オオウナギ）」が生息しています。

港を望めるウッドデッキ&ベンチ！

超eco！

島には、今も「自動車」が無いため、歩行者専用の「みち」しかありません。そのため、物資の運搬に欠かせないのが、ネコ車（手押し車）です。昔、女性にとって重労働だった、共同井戸からの水汲みに、大変役立ったといいます。



意外とカワイイ

出羽島の民家の特長として、「ミセ造り（蔀帳）（ぶちょう）」があります。ミセとは、折りたたみ式の板戸（雨戸）で、上ミセと下ミセに分かれています。下ミセは、縁台や漁具の手入れをする、作業場として日常的に使われています。

感動的な機能美です。

絵地図／小部 博正